

## 授業改善書

科目名	ベンチャー企業論
担当者	内田成

### 授業の概要

わが国において新産業の創出や産業の活性化の担い手として近年ベンチャー企業が注目されるようになっていっています。その理由としては、これまで日本の経済発展の原動力となってきた企業や産業が現状の変化しかし、戦後の日本経済の発展を振り返ってみると、その担い手はベンチャー企業と呼びうる企業が、その中核にあったことがわかります。その当時はベンチャー企業という呼称がなかっただけです。たとえば、ソニー、パナソニック、ホンダをはじめ現代では大企業となっている企業も歴史的に見ればベンチャー企業といえます。そこで授業では、そのような日本のベンチャー企業だけでなく、グーグル、アマゾン、アリババといった海外のベンチャー企業も取り上げて、ベンチャー企業の特徴やその役割を学んでゆきます。

### 授業の問題点

主な意見として、「時間いっぱい詰めてあるために整理ができない」がある。また、授業内容については3.88、テキストについても、3.88、ただし、得るところがあったかは、3.71とややひくい。また全体として満足度が3.42である。

### 授業改善の課題・方策

主な意見として、「時間いっぱい詰めてあるために整理ができない」があるが、これは90分を目いっぱい使っているために出た意見であるとおもいます。しかし、大学の授業は予習・復習を前提としていますし、テキストもついています。そして、授業の終了時に翌週の授業で取り上げる範囲をアナウンスしてます。もしも、キチンと予習・復習をしているならば、十分に理解できる内容であると思います。また、板書をできるだけコンパクトにしたので、負担は軽減されている思います。授業の満足度および得るところについて、評価が低いのは、授業で取り上げた企業が我が国の基礎を気づいた、どちらかといえば、馴染みのない、古い企業だったことも影響をしていると思われます。今度は古い企業よりも新しいベンチャー企業を取り上げてゆこうと考えております。

### その他